

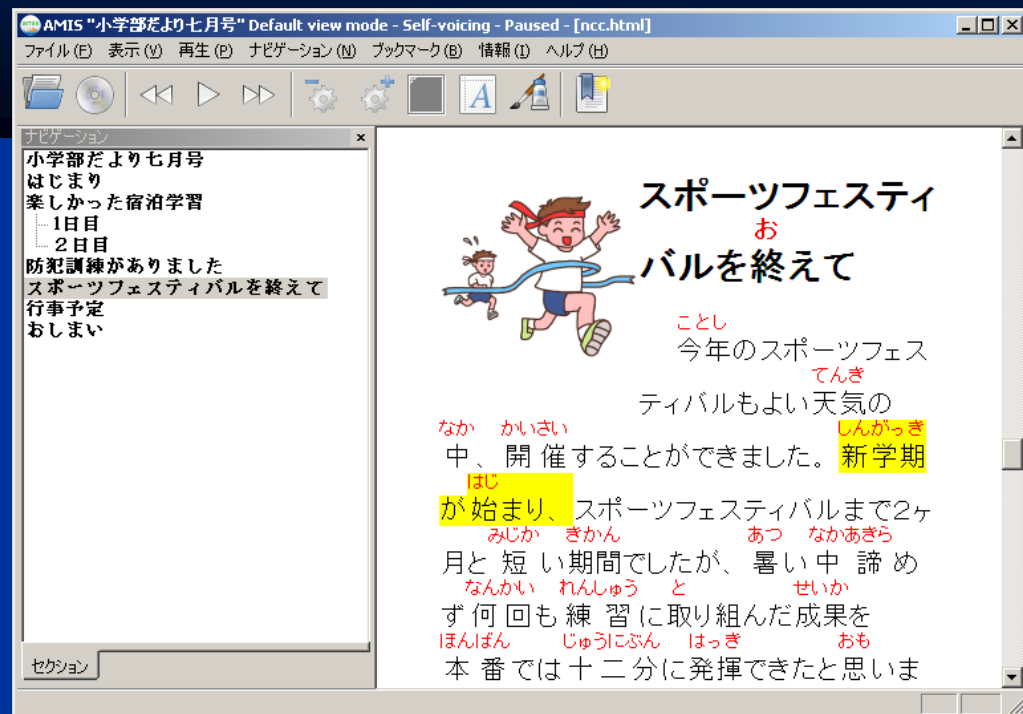
重複障がいの生徒への DAISYの利用



チャレンジド イラスト・カット集より

マルチメディアDAISYとは

- もともととは録音図書
- 音声だけでなく、テキストや画像が含まれる
- 音声とテキスト・画像が同期する
- キーボードで見出し・フレーズ単位に任意の場所に移動することができる



視覚支援学校でのDAISYの利用

■ 録音図書としての利用

1. 特に専攻科で、中途失明や弱視の生徒が教材としてまた、授業を録音して利用
2. 「あきは」の国家試験でも、問題文がテープに代わって、DAISYになる

■ 中学部の中途失明の生徒が、マルチメディアDAISYの教科書を使いはじめた

対象の生徒

- 高等部
- 全盲
- 点字の読み書きはできない
- 1年時より、コンピュータを利用した授業を受ける
- 現在、7個のキーの役割の違いがわかり、使うことができる

利用しているソフト・機器

- DAISY再生ソフト(AMIS S3.1)
- DAISY図書作成ソフト (SAVE AS DAISY)
- 補助ソフト(アミの本棚)
- パソコン(OSは Windows2000・XP)
- 入力機器 テンキー



テンキー(キーは7個)



- 必要のないキートップは外す
- 1. 8、2キーは柔らかい滑り止め
- 2. 4、6、—キーは硬い滑り止め
- 3. Num Lockは先生用

目標と目的

- 目標

自分が好む本などを、選択して「読む」こと

- 目的

音楽を聴く以外に、本を「読む」楽しみを知り、
本を読む習慣をつけQOLを高める

- ここで「読む」とは、何度でも繰り返し聞いたり、読み飛ばしたりすることを言っています。受動的に聞くのではなく、いわば能動的に聞くことをいいます。

なぜDAISYを選んだか

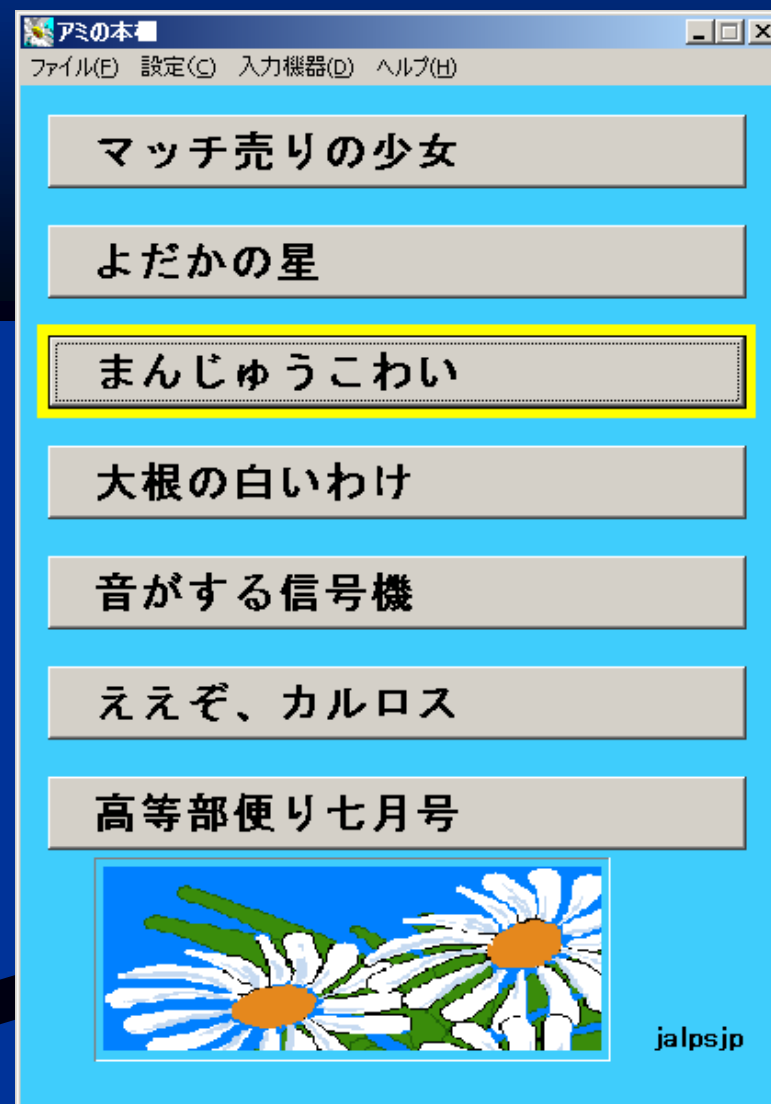
- スクリーンリーダを使うことに比べて、操作が簡単
- 視覚障がい者にとって、DAISY録音図書は多数ある(ただし、子供用のものは少ない)
- DAISY録音再生機は日常生活用具対象商品ある

SAVE AS DAISYの利用

- 本人の関心のありそうな図書を作成したい
- 高等部便りなど身近なものを本人が読めるようにしたい
- 自分の声を使うより、比較的簡単に製作できる
- 教員(晴眼者)にとって音声だけのDAISY図書は、授業で使いにくい

アミの本棚(α版)

- 読みたい本を選択する機能
- テンキー・スイッチで、AMISを操作できる
- 振り仮名の有無や縦横書きの変更・教科書体を使える
- 音声合成エンジン対応



効果

- たとえば、高等部だよりを読むときも、友達の書いた部分を、なんども読み返すということが見られた
- どの本を読むかと本人に聞くと、この本を読みたいといって、自分で操作・選択して読むようになった
- 国語の教材として、内容を考えさせながら指導することが、やり易くなった

今後の指導

- コンピュータではなく、DAISY再生機を使って、一から自分で読むことができるようにしたい
- 卒業後も家庭などで、DAISY録音図書を読めるように、DAISY図書の入手・利用方法など、保護者と連携していきたい



シナノケンシ株式会社のサイトより